

第03号 | 2013年1月22日発行

1年生が大学近くの児童館を訪問しました！

准教授 鈴木崇之



保育士の仕事は保育所だけにとどまりません。児童福祉法において「児童」は18歳までと規定されていますので、幅広い年齢層を対象に、様々な支援を行うことも保育士の業務ですし、近年は保護者に対する支援にも注目が集まっています。

今回は、そんな保育士の業務の幅広さに気づき始めた1年生たちと一緒に、東洋大学朝霞キャンパスから徒歩15分の場所に

立地している「朝霞市みぞぬま児童館」を訪問し、板垣聡志館長に館内を案内していただき、児童館の現状を説明していただきました。

午前中は子どもと保護者の来館が多く、絵本の読み聞かせや折り紙教室、体操教室など、子どもの発達段階に応じた様々なプログラムが日替わりで準備されています。また、季節ごとの様々なイベントも実施していただけるということです。

放課後になると自由来館の子ども達がたくさん来館し、児童館は大きな賑わいを見せます。剣玉、竹馬、縄跳びの検定や、塗り絵の展示コーナーなど、子ども達が遊びを発展させていくことができる様々な工夫がされています。

私達が見学を終えて帰ろうとした時、2組のお母さんと子どもが来館されました。さんさんとした日差しの降る「0～1歳コーナー」は、ハイハイやヨチヨチ歩きの子どもの安全に遊ぶことができるように、しっかりと衛生管理され、転んでも安全なコルクマットのフロアとなっています。まぶしいけれども、暖かな日差しの中でヨチヨチと歩く子どもを、安心した表情で見守るお母さんの様子から、子育て支援の社会資源として児童館が果たしている役割の重要性が感じられました。

板垣館長は「個別のボランティアでも何でも良いので、ぜひ児童館の子ども達と関わって、保育力を高めてください」と、訪問した学生達を励ましてくれました。板垣館長をはじめとしたスタッフの皆様、私たちの訪問を受入れていただきありがとうございました。

